



男子トイレの小便器は、センサー式で手を触れずに流せる、掃除のしやすい壁掛け式に。

取材に応じる大阪府教育庁施設財務課の方々。右から、尾崎千賀さん、山口敦子さん、小田川泰彦さん、木田聖捷さん。



学校トイレの
改修事例

02

大阪府堺市

大阪府立泉北高等学校

3年間で107校のトイレを改修
府立高校の1系統を完全洋式化へ

性的マイノリテイ
対応も見据え
多機能トイレも設置

大阪府は今、高校トイレの洋式化に本格的に取り組んでいます。

府内の全136の府立高校は、築40年以上が半数以上。古いトイレは基本、和式便器で各1基洋式がある程度でした。

「2011年から4校ずつトイレ改修を進めていましたが、全部終わるまでに25年かかる。和式便器は時代の流れにそぐわないし、保護者からの署名や議会の声もあり、スピードアップすることになりました」(大阪府教育庁 施設財務課 山口敦子さん)

具体的には、トイレ未改修だった107校について、2019年度末までの3年間で、各高校の校舎の1系統を洋式化する計画です。

費用は1校当たり約5,000万円。限られた予算と工期ですが、部分改修ではなく、全面改修を基本としています。そのために仕様や図面は統一し、パッケージ化

しました。

「平面図のプランを2〜3案学校側に見せて選んでもらい、配置や便器の数などについて意見を伺い、微調整していきました」

工期は、「夏に設計→冬工事」と「冬に設計→夏工事」の2パターンで進めています。

「工期の確保は苦労しました。特に夏休みのような長期休みのない冬工事のときは、学校側と調整しながら、音の出る工事は土日や放課後の時間を駆使して行いました」(小田川泰彦さん)

今回の改修では、スペースが許せば、性的マイノリテイ対応も見据え、男女共用の多機能トイレも設置しました。改修後の泉北高等学校の佐保田真一教頭は言います。

「フロアごとに男女が分かれているので、各フロアに男女共用の多機能トイレがあればよいと考えていた。また、性的マイノリテイの生徒は、確率的にクラスに数人いるといわれており、配慮も必要であると考えました。快適できれいなトイレを作ってもらい、生徒も喜んでいきます」



今回の改修計画では学校内に多機能トイレがなく、既存トイレスペース内に設計上設置できない場合を除いて、改修工事の際に一つは多機能トイレを設置する方針。



多機能トイレのサインは性的マイノリティにも配慮し、学校側で、男女マークと「どなたでもご自由にお使いください」と一文を添えた。

要望が多いため、ワンフロアの男女トイレ各1カ所に温水洗浄便座を設置。

改修前



①改修が済んでいない別棟の男子トイレ。きれいに手入れされているが、かなりにおいが残る。②未改修の女子トイレ内にただ1基ある洋式便器。車いす使用者でも使えるようには配慮されているが、トイレの奥にあるため不便。③改修未着手の女子トイレ。タイプの異なる和式便器が並び、壊れても和式便器が設置し直されていたことがうかがえる。



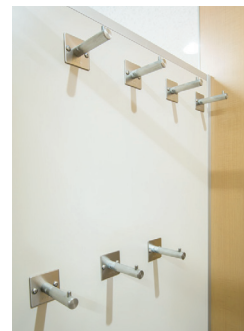
これまで各トイレ内奥に車いす使用者用トイレがあったが、廊下に面して多機能トイレ(男女共用)を作ったことで、誰もが使いやすくなった。



感染症対策と蛇口の閉め忘れ防止の観点から、非接触の自動水栓を採用。



3階女子トイレ。各ブースの上にLED照明をつけて、空間を明るく。



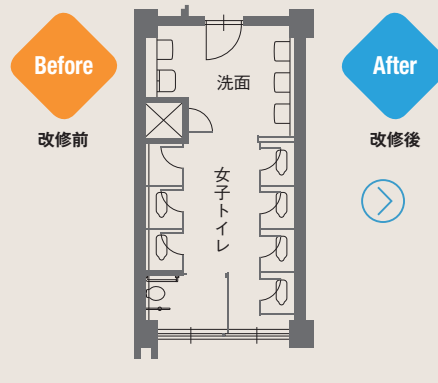
掃除用具入れには、モップ類がかけられるようしっかりと頑丈なフックをつけて。

DATA

- 名称：大阪府立泉北高等学校
- 所在地：大阪府堺市南区若松台3丁2番2号
- 生徒数：839名(2018年4月)
- 施主：大阪府
- 設計：協和設計事務所
- 施工：サイモック
- 竣工年月：2017年2月(改修)



B棟3F女子トイレ



入り口付近にあった洗面台を中央に配置し、多機能トイレのスペースを確保。

S=1:200